

みんなの
臨床検査

検査で守るあなたの健康

www.jpclt.org



肝臓の検査



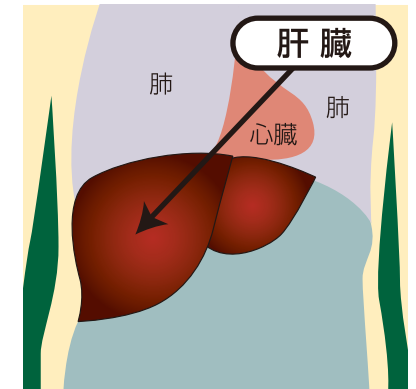
臨床検査振興協議会
Japanese Promotion Council for Laboratory Testing

肝臓とは？

肝臓は右上腹部にある重さ約1.0～1.5kgほどの臓器です。内臓の中では一番重い臓器です。

どんな働きがあるの？

- 消化管から吸収された糖分や脂肪をエネルギーとして蓄えたり、蛋白を合成したりします。
- 脂肪の消化を助ける「胆汁」を産生します。
- 薬やアルコールなどを分解し、体外に排出します。
- 止血に必要な凝固因子を産生します。
- 他に、ホルモンの不活化、血液中の異物（細菌等）の除去など様々な働きがあります。



肝臓の検査ってどんなのがあるの？

肝臓の検査には大きく分けて

「血液検査」

「組織検査」

「画像検査」

があります。

医師は、患者の訴えをもとに問診や触診を行い、疾患を推測し、いくつかの検査を実施して総合的に判断します。



血液検査で何がわかるの？

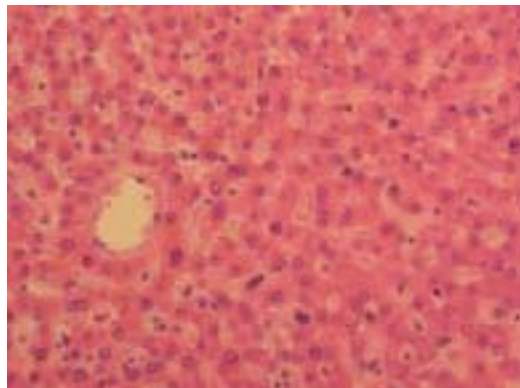
一口に肝臓の血液検査
といっても、多くの種類があります。
ここでは、代表的な検査項目に
ついて説明します。



検査項目名	
AST (GOT) ALT (GPT)	肝細胞が壊れると血液中に漏れ出てきます。
アルブミン コレステロール	肝臓で作られます。肝細胞がたくさん壊れると 造られなくなり、血中の値が減少します。
γGT (γGTP)	アルコール性肝障害の時などに上昇します。
血小板数	肝硬変では脾臓が大きくなり、 ここに血小板が取り込まれるため減少します。
肝炎ウイルス	肝炎ウイルスにはA型、B型、C型などの種類が あり、それぞれの型に応じた検査があります。

組織検査で何がわかるの？

組織検査は、肝臓の一部を採取し、慢性肝炎や肝硬変の程度や腫瘍が悪性か良性かを調べます。通常は、肝臓に針を刺して組織を採取し、顕微鏡で観察します。



肝臓の顕微鏡写真→

画像検査で何がわかるの？

画像検査には腹部超音波やCT、MRIなどの検査があります。これらの検査では、肝臓の表面や中がどのようになっているかを調べます。また、腫瘍がある場合には、どの位置にあるか、それがどれくらいの大きさかなどがわかります。

腹部超音波検査

人の耳には聞こえない高周波の超音波を使って検査します。この検査は痛みもなく、また、体に害もありませんので頻繁に行われます。超音波検査では肝臓は黒っぽく見えますが、脂肪がたまると白っぽく見えます。また、肝硬変では肝臓の線維化の程度がわかります。



CT検査

X線を使って、体の輪切りの写真を撮ります。目的によっては造影剤の注射を行います。この検査では肝細胞の状態がわかり、腫瘍がある場合、どの位置にあるかを特定します。



肝臓は、生活習慣とも
密接な関係があります。普段から規則
正しい生活を心がけましょう

